

1 教育目標（目ざす児童像含む）

○ よく考え、学ぶ子ども（知） ○ 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） ○ 明るく、たくましい子ども（体）
 ～ かしこく・やさしく・たくましく ～

2 学校経営の理念（目ざす学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子どもの育成を目指す。そのために学習面においては、きめ細かな指導により基礎基本の徹底を図るとともに、認め合い、学び合う集団づくりに努める。生活面においては、積極的なあいさつの励行や時と場に応じた言葉遣いの指導など、礼儀正しく、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。また、地域、保護者との一層の連携を図り、地域に開かれた信頼される学校づくりに尽力する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- ・「上河内地区小中一貫教育・地域学校園」における児童生徒健全育成のテーマに沿って、本校を取り巻く地域の教育力を最大限生かした教育活動を展開する。
- ・あらゆる教育活動において、自分の考えを堂々と表現できる力の育成に努める。
- ・授業における個に応じたきめ細かな学習指導と、学習形態や意見交換の場の工夫による児童相互の学び合う環境づくりに努める。
- ・基本的生活習慣の徹底を図り、気持ちのよいあいさつや返事ができる、思いやりの心にあふれる児童の育成を図る。
- ・魅力ある学校づくり地域協議会等、学校支援者支援団体との連携強化により、地域の特色を生かした学校運営に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

～主体的に学び、自分の考えを進んで表現できる子どもの育成～

- （学校運営）・地域の教育力を生かした、開かれた学校を目指す。
- ・教職員の資質向上を図り、信頼される学校を目指す。
 - ・特別支援教育の理解の徹底と、個に応じた指導の充実を目指す。
- （児童指導）・すべての教職員がすべての児童と関わり、居がいのある学校づくりに努める。
- ・生命尊重の姿勢を育みながら、いじめゼロを目指す。
- （健康・体力）・業間を活用した体力づくりの励行
- ・食の指導や保健指導をととした健康保持のための指導の強化
- （学習指導）・楽しくわかる授業を展開し、基礎基本の徹底を図る。
- ・効果的な家庭学習の充実により、主体的な学習習慣の定着を図る。

5 自己評価（Aは共通評価指標、Bは学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価指標	主な具体的な取組	方向性	評価
教育全体の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 95.2% 「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」 ⇒保護者肯定的回答80%以上 保護者 97.5%	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。	A	A1について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答 95.2%，保護者 97.5%で指標を達成した。 ・①については、児童昇降口の壁面に常時合言葉を掲示し、児童の目に触れるようにすることで意識づけを図っている。また、学校で使用する封筒の下部にも合言葉を印刷しておき、保護者や地域に浸透させるように取り組んできた。 【次年度の方針】 ・①については、合言葉のさらなる浸透を図るとともに、活気のある雰囲気が醸成できるよう、縦割り班活動や食農体験など児童が主体的に活動できる様々な取組を学校全体で推進していく。 ・②③継続
		② 学校行事では、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、明るく生き生きと取り組ませる。	B	
		③ Q-Uの結果を分析し、児童一人一人がいきいきと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	B	

A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「先生は大切なことを熱心に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 97.6% 「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 96.8%	① 学びに向かう集団に高めながら、児童一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し、意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助する。 ② 職務の遂行に当たっては、キャリアや専門性、特性を生かし、見通しをもって創意ある取組を目指す。 ③ 保護者や地域住民へ、児童の様子の紹介や協力依頼の発信など進んでコミュニケーションをとり学校教育の理解を促す。 ④ 来校者・電話・連絡帳などでの手紙には、速やかに丁寧に対応する。 ⑤ 服務規律を守り、信頼される教職員を目指す。	A2 について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 97.6%，保護者 96.8%で指標を達成した。 ①～⑤のいずれの取組も一定の成果が上がっている。特に保護者の肯定的回答は昨年度を 4%以上上回った。 【次年度の方針】 ①については、児童が意欲的に学習に取り組めるための効果的な指導方法について、教職員の共通理解が図れるような場と時間の確保に努める。 ②については、教職員の学校経営への参画意識を高めるとともに、一人一人が指導における達成課題を明確にして取り組んでいくように努める。 ③については、情報発信のための各種便りの内容の充実に努めていく。 ④⑤については、継続して、児童、保護者、地域住民からの信頼を得られるように、全職員が誠意をもって指導に取り組んでいく。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 87.4% 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 93.4%	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「よい子の生活」に示し、学習と生活のきまりの徹底に努める。 ② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう週生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って意識づけをする。 ③ 避難訓練(火災・地震・不審者)、交通安全教室、防犯教室の実施や、「子ども 110 番の家」への理解等を通して、危機管理能力を高める。	A3 について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 87.4%，保護者 93.4%で指標を達成した。特に保護者の肯定的回答率は 10%近く上昇した。 ②については、生活当番の教員が校舎巡回を実施し安全確認に努めてきた。 ③については、緊急時児童引き渡し訓練を実施し緊急時に備えた。 【次年度の方針】 ①については、引き続き朝の会や帰りの会で「よい子の生活」を取り上げ、定期的に振り返る機会を設けるようにする。 ②については、生活当番の教員が巡視した際に、必要に応じて放送で注意を促したり、児童指導主任に報告したりして共通理解を図り指導に役立てていく。 ③については、今年度とは設定を変えた内容で引き渡し訓練を実施し、危機意識を高めていく。
A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 97.6% 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 92.9%	① 授業のねらいを明確にし、児童の関心や理解を促す教材開発や分かる授業のための指導法の工夫に努めると共に、共有化を図る。 ② 習熟度別学習や少人数指導、T T 指導、かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	A4 について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 97.6%，保護者 92.9%で指標を達成した。 - 保護者の肯定的回答率が昨年度より 5%近く上昇している。①②における指導法の工夫や個に応じた指導など、学力向上のための各種の取り組みに対する理解が深まりつつある。 ②については、担当者間で情報交換を密にして教材研究を入念に行い、分かる授業の工夫・改善に努めてきた。 【次年度の方針】 ①②ともに、積極的に授業を公開し、保護者や地域住民へのさらなる周知を図る。 - 習熟度別学習や少人数指導については、単元に適した指導形態を柔軟に取り入れることで、児童一人一人へのきめ細かな指導を展開していく。

学校運営の状況	A5 学校は、いじめ撲滅のための方針を明らかにし、いじめのない学校づくりに努めている。 〔全〕 【数値目標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 99.0% 「学校はいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 75.6%	① 「いじめ防止基本方針」を策定し、保護者および地域に周知するとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。 ② いじめ対策のための具体的取組について、保護者および地域との連携を図り、協働して取り組んでいく。	A A	A5について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 99.0%, 保護者 75.6%であった。児童の回答率が 100%に近いことから、児童は教師がいじめを許さないという姿勢で指導していることを強く感じている様子がうかがえる。 ・保護者の肯定的回答が指標に達しない理由として、学校の「いじめ防止基本方針」に沿った取り組みが十分周知されていないことが考えられる。 【次年度の方針】 ・全校縦割りによるいじめ撲滅のための集会を実施していること、年間 3 回のいじめアンケートを実施して、いじめの早期発見や防止に努めていることなど、いじめ対策のための取組を、学校自由参観日や各種便り等を通して、保護者や地域に周知していく。
	A6 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 93.2% 「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 98.5%	① 日課は、子どもにとってゆとりと秩序のあるものになるよう適切に実施する。 ② 新学習指導要領及び小中一貫教育の趣旨を踏まえ、学校スタンダードに示す取り組み実践するよう、各教科等年間指導計画・各種教育年間指導計画を見直すとともに、本校独自の教育活動を推進する。 ③ 学校行事は、その都度評価し、改善すべき点について検討して次年度に生かす。	B B B	A6について 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 93.2%, 保護者 98.5%で指標を達成した。 ・①については、昨年度の反省に基づき、A 日課と C 日課で 3 校時以降の授業の開始時刻を合わせるなど改善を図った。 ・学校行事についても、実施の都度評価を行い、改善するようにしてきた。 【次年度の方針】 ・①については、次年度も今年度改善した日課を継続実施していく。 ・②については、今年度実施した、地域と連携した授業や、地域の企業および施設訪問で、一定の効果があつたものについて年計に加え自校化していく。 ・③については、次年度も早めに評価を行い、結果をもとに改善していくように努める。
	A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「学校は学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 98.0%	① 学校だより、学年だより、保健だより、図書館だより、教育相談だより、食育だより等様々なたよりの作成において、関心を高める紙面の工夫に努めながら積極的に発信提供したり、ホームページを適宜更新したりして、保護者や地域住民に学校の取り組みを知らせる。 ② 授業参観、学校自由参観日、学校行事等において積極的に保護者や地域住民に学校を公開し、アンケートを実施して保護者や地域住民の意見を学校経営に反映させる。	B B	A7について 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率 98.0%で指標を達成した。また、教職員、地域住民ともに肯定的回答 100%であった。 ・①の各種たより等については、時季を考慮した話題を取り上げたり写真を多く入れたりと関心を高める工夫を行ってきた。 ・②についてはアンケートだけではなく、感想等も求めるようにし改善に生かせるようにしてきた。 【次年度の方針】 ・①②継続

A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 93.7% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 94.9%	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実する。 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	A8について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 93.7%，保護者 94.9%で指標を達成した。 ①②ともに、地域協議会や地域住民の協力により、地域人材を学習活動に取り入れた効果的な活動を展開することができた。 - 児童が課題解決の方策として、地域教材や人材を広く求め、より深い追究をすることができた。 【次年度の方針】 - 学校として、年間を見通した外部講師への依頼内容をまとめ、地域協議会等の組織を機能させて交流を深めていく。 1年：昔遊び 2年：地域探検 3年：ゆず料理 4年：地域に伝わる祭り 5年：福祉センターとの連携 6年：地元産業見学
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「校内は、学習にふさわしい環境となっている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 94.7% 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者肯定的回答 80%以上 保護者 98.5%	① 校舎内外の美化に努め、児童自ら日常的に清掃活動に取り組むよう支援し、快適な学習環境作りを目指す。 ② 日々校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い学習環境の整備に努める。 ③ 適切に予算を執行し、指導計画に基づいて教材教具を整備してその適切な活用と管理に努める。	A9について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 94.7%，保護者 98.5%で指標を達成した。 ①については高学年が交代で朝の清掃を実施した。他の児童も校内美化に努めている ②については、校舎内外の環境整備や、備品管理作業等を計画的に実施してきた。 ③については、予算の執行についての情報交換を密に行い、予算を計画的に使うことができた。 【次年度の方針】 ①②③いずれにおいても、定期的に備品整理を行うとともに、計画的に教具・教材の整理・整頓を行っていく。
B1 教職員が情報を共有し、課題のよりよい解決に向けて全職員が一丸となって取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「情報を伝え合い解決に向けてそれぞれの役目を果たしている」 ⇒本校独自アンケート 教職員 100%	① 管理職及び職員間の報・連・相を大切に、互いに声をかけ合うと共に、「報・連・相ノート」を活用して共通理解に努め協力し合う。 ② 問題行動発生時には、校長のリーダーシップのもと全職員が連携して組織的に取り組み、誠意ある対応を心掛ける。	B1について 【達成状況】 - 教職員の肯定的回答率 100%で指標を達成した。 ①②ともに、全教職員で情報を共有したり、問題が起きた場合は、関係する教職員が一丸となり解決に当たったりしてきた。また管理職に常に正確な情報が伝わるように組織を整え、適切な対応ができるよう努めてきた。 【次年度の方針】 ①②継続

教育活動の状況①	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時や場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上 児童 92.3% 保護者 79.0%	① 各学年のあいさつ運動や地域協議会のあいさつ運動で意識を高めながら、日々の生活指導の中で明るいあいさつや元気な返事ができる子の育成を目指す。	A	A10について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 92.3%，保護者 79.0%で保護者は指標に届かなかった。教職員、地域住民、児童の肯定的回答率がかなり上昇していることから、校内や地域では、進んであいさつができるようになってきていることがわかる。 ①については、地域協議会では年間 10 回、小中一貫教育の取組として中学生とともに年間 2 回、合計 12 回の、地域ぐるみのあいさつ運動を実施した。 【次年度の方針】 - 新しい取組として、平成 26 年度の 2 学期から「あいさつ名人」の表彰を始めた。顕著な効果を上げつつあるので、次年度もさらに内容を充実させて取り組んでいく。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 82.6% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80% 保護者 69.8% 地域住民 92.9%	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させると共に、道徳の時間の重点項目に掲げて指導の徹底を図る。 ② 朝の会や会話科、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達段階に応じた指導をする。	B	A11について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 82.6%，保護者 69.8%，地域住民 92.9%で、保護者は指標に届かなかった。 - 教職員の肯定的回答率も 65.0%でありすべての回答率の最低値を示し、本校の課題となっている。 【次年度の方針】 - 職員室への入室の際のあいさつの仕方、休み時間の会話における言葉づかい、日常的な友達の呼び方等、様々な場面で望ましい言葉づかいの例を示し、教職員の共通理解のもとで徹底して指導に当たっていく。 - 学級懇談会や家庭訪問、個人懇談等でも「言葉づかい」について話題として取り上げ、家庭と連携を図り指導にあたりたい。
		B2 学級のみならず仲良く、助け合って生活している。〔全〕 【数値指標】 いじめの実態調査 ⇒いじめの解消率 100% 児童 100%	① いじめの早期発見・早期対応のため、年度当初にいじめの実態調査の日程を決めて定期的の実施して実態把握に努めるとともに、年に 2 回定期教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。 ② 道徳の授業の公開や人権週間の様々な活動を良い機会としながら、日々の体験を通して人権意識を高め、思いやりの心やわがまに打ち勝つ強い心を育む。	B	B2について 【達成状況】 - いじめの解消率は 100%で指標を達成した。 - いじめのアンケートは 7 月、10 月、2 月と 3 回実施した。その結果をもとに、いじめの訴えがあった児童について丁寧に聞き取りを行い、適切な対応をすることで、すべての訴えに関して対処することができた。 - 全校縦割りによるいじめ撲滅のための集会を実施し、班ごとに人権に関する標語を考案した。それらを発表した後、その標語を昇降口に掲示し、全校生の意識を高めた。 【次年度の方針】 ①②継続

	B3 にこにこ班活動（縦割班）で仲良く協力し合って活動している。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、にこにこ班活動で仲良く協力し合っている。」 本校独自アンケート ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 93.1%	① 日々の清掃活動や学校行事、月1回の異学年遊びなどのにこにこ班活動の機会を設定し、協力して仕事や活動ができるようにする。	B	B3について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 93.1%で指標を達成した。にこにこ班での活動を楽しんでいる様子がうかがえる。 【次年度の方針】 - 現在の縦割り清掃や遊びの他に、ボランティア的な活動も取り入れ、さらに異学年交流のよさを生かしていく。 - 班の担当教職員が「にこにこ班」の活動を6年生のリーダー性を培う場としてもとらえ、指導の工夫を図るように努めていく。
	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。〔全〕 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 90.8%	① ミニマム達成のための運動プログラムを実施して運動の日常化に努めながら、教科体育においては授業の開始に当たってサーキットトレーニングを実施し個に応じた体力づくりに努める。 ② 態度基礎訓練として、特に「気をつけ」時の足の開きを徹底する。 ③ 学級においては、水曜日のロング昼休みに共遊の時間を確保するように努め、体力向上を目指すとともに学級の人間関係の構築を図る。	B B A	A12について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 90.8%で指標を達成した。 ①については、サーキットトレーニングを取り入れ、発達段階を考慮しながら体力づくりを進めてきた。また、地域学校園で検討した水泳検定表を使用し、中学校との一貫性を図っている。 【次年度の方針】 ①②継続 ③については、各学級で計画を立て、よりよい人間関係の醸成と体力向上の両方の視点から、内容を充実させて実施していく。
健康・体力	A13 児童は栄養にバランスを考えて食事している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 児童 79.7% 「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 保護者 71.8%	① 学校栄養職員の取組みを生かし、教室やランチルームでの給食指導の充実を図ったり、保護者への啓発に努めたりしながら、望ましい食習慣を育て食事のマナーを身につけさせる。 ② 食事をとることの大切さについて、学年に応じた授業を通して理解を深め、自ら実践する態度を育てる。	A A	A13について 【達成状況】 - 児童肯定的回答率は 79.7%、保護者は 71.8%で指標には届いていないが、どちらも昨年度の数値より 5%以上上昇し、指導の効果は上がっている。また、教職員と地域住民はともに 90.0%だった。 - ランチルームでの会食時には、献立について、栄養のバランスや食材等の情報を伝え、食育指導をその都度行っている。また、偏食のある児童に対しては、少しずつ食べられるように個別に指導している。 【次年度の方針】 ①については、学校栄養職員が授業に参加するなどの工夫をして指導を行っていく。 ②については、栄養に関する内容の授業を公開したり、保護者対象の食育に関する研修会を開いたりして保護者の食育への関心を高めていく。

学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上 児童 92.3%	① 授業では、聞く態度の定着を基盤に、基礎・基本の徹底を図るとともに、様々な学び合いの中で「練り合う」場面を設定し、「話す」力を高めながら、自分の考えを堂々と表現できる児童を育てる。 ② 学び合いの場面では、友達の考えを参考にしたり、比較したりしながら、自分の考えをまとめ、表現する力の育成に努める。	A A	A14について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は92.3%で指標を達成した。昨年より10%近く上回っており、児童がより積極的に学習に取り組んでいる様子がうかがわれる。 - 教職員においては15%も数値が向上し、学習態度が受け身だという昨年度の課題が解決された。 - 各教室に『「目・耳・心」で聞くこと』『「はっきり、ゆっくり、大きな声で」話すこと』など、聞き方や話し方について具体的に掲示した効果があがった。 - 言語活動を意識した学校課題を掲げ、教員の研修を深めたことにより、児童の学習意欲も向上した。 【次年度の方針】 ①②ともに、児童の実態を的確に把握し、実態に即した方策を立てて、さらに言語活動への意欲高めていきたい。また、基礎・基本の定着を図るとともに、それらを活用して表現する場の設定を工夫していく。
	B4 基礎的・基本的な学習内容を身につける。〔全〕 【数値指標】 学習内容定着度調査の結果<基礎的内容> ※ 結果が届いてから記入 国語 算数	① 朝の学習や授業において、漢字・計算等の徹底した反復練習によって定着を図り、達成感を味わわせることにより学習の習慣化を目指す。 ② 家庭と連携を図りながら、(学年×10分)の家庭学習を実践する。	A A	B4について 【達成状況】 - 学習内容定着度調査結果から基礎的内容の結果を抽出し分析した。市の平均から見ると、国語については～算数については～が明らかになった。 【次年度の方針】 - 当該学年における基礎・基本の確実な定着が次年度の基盤になっていくので、定着度を単元終了時に必ず評価し、その結果を指導に生かしていく。 - 児童の学習に対する興味・関心を高め、それが持続できるような指導方法を工夫していく。 - 家庭と連携を図り、家庭学習の習慣を身に付けさせる。
	A15 児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童・保護者の肯定的回答80%以上 児童 87.0% 保護者 87.7%	① 学習の基盤となる学習態度や学習技能を身につけるために、学校全体で「学習のきまり」に取組み、系統的に発展的指導に努める。 ② 「話の聞き方」については、全教育活動を通して、学年の発達段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。	B B	A15について 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は87.0%、保護者87.7%で指標を達成した。 ①の「学習のきまり」について共通理解を図って指導したことは効果的であった。 ②については朝会や集会の際も「話は目と耳と心で聞く」ことを各担当者が呼びかけた成果が見られた。 - 言語活動の充実を掲げた研究の成果により、自分の考えをもって、落ち着いて学習に取り組む児童が増えてきた。 【次年度の方針】 - 落ち着いた環境の下で、真剣に学習に取り組むことの重要性を全職員で共通認識した上で、今後も研究を継続していく。さらに、発達段階に応じた聞き方について、掲示物等で段階的に示し、発達段階に応じた聞き方ができるようにしていく。

本校の特色・課題等	B5 自分の住んでいる地域を理解し、郷土に対する愛情を持っている。 【数値指標】 全体アンケート 「校外に出て、地域を調べたり体験したりする学習は、地域理解に役立つ活動である。」 「食農体験活動は農業や食への理解や関心を深めるために大切な活動である」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上 児童 98.0% 保護者 98.5% 地域住民 100%	① 「ふるさとカルタ」について調べる中で、地域のすばらしさに触れ、地域の方との交流を深める。さらに、家庭でもカルタを利用してもらうことにより家庭と連携しあった活動を目指す。また、地域のシンボルである羽黒山に登り、郷土愛をはぐくむ。 ② 全児童が食農体験事業で田植えや稲刈りを体験したり、5年児童が総合で稲の観察や世話などを実践したりすることで農業や食への理解や関心を深める。	B	B5について達成状況】 - 児童肯定的回答率は98.0%、保護者98.5%地域住民100%で指標を達成した。 ①の「ふるさとカルタ取り大会」では、すべてのカルタの中から50枚のカルタを取り上げ、保護者や地域住民を招いて大会を開いた。その50句については、全学年が冬休みの課題として暗記に取り組み、家庭でも地域のよさを再確認する機会となった。 ②の食農体験では、収穫した米で、各学年がおにぎり作りやお弁当づくりに取り組むことができた。同時に、稲の生育についての関心を高めることもでき、食育の面での成果も見られた。 【次年度の方針】 ①②継続

〔総合的な評価〕

※地域学校園内で共通する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 学校運営について	- 各種便り、ホームページ、オープンスクール等により、学校の現状や教育活動について積極的に情報を提供することができた。その結果、多くの項目で指標を大きく上回り、児童はもちろんのこと、保護者、地域住民ともに学校に対して、深い信頼と期待を寄せていることがうかがわれた。 - 教育活動においては、地域人材や地域施設、地元企業と連携した授業を展開することができ、地域と連携した教育活動が展開された。地域ボランティアについても、数年間継続して協力してくださる方々の他に、今年度からは除草ボランティアを新しく登録するなど広く募集をし協力を依頼してきた。 - 小中一貫教育では、乗り入れ授業や小学6年生による中学校訪問、宿泊学習における合同調理など、地域学校園としての交流を行うことができた。
2 教育活動の状況について	- 教職員の回答状況から、教職員が自らの使命を自覚し、誠実に教育活動に取り組んでいることがわかった。学習指導では、今年度は言語活動の充実を学校課題として掲げ、全教員が授業を互いに見せ合うなど、指導方法の工夫と改善に取り組み、教職員の指導力向上につながった。その結果として、全体アンケートA14の児童の肯定的回答率の10%上昇に見られるような、児童の学習意欲の向上や話し合い活動の活性化につながった。 - 児童指導については、今年度より「あいさつ名人」の表彰をはじめ、あいさつの励行を奨励するとともに地域ぐるみであいさつ運動を展開した成果が見られた。いじめについては、日頃から学校全体でいじめを生まない素地づくりに努めるとともに、訴えがあった場合は、素早く組織的に対応したことで解消に結びついている。 - 健康・体力に関して、「好き嫌い」について児童、保護者とも指標には達していないが、どちらも昨年より数値が上昇していることは、これまでの取組の成果であり、今後も継続していきたい。
3 本校の特色について	- 本校独自の地域に密着した活動は、教育的効果が高いことが明らかとなった。「ふるさとカルタ」に関する取組や、田植え、稲刈り等の食農体験は、本校の伝統となるように、地域の協力を得ながら今後も続けていきたい。 - ぼうじぼづくりやゆず料理、昔遊びなど、特定の学年を対象とした、地域ボランティアとともに活動する取組も、確実に定着しつつあり、今後も地域協議会等の協力を得ながら継続していきたい。

6 学校関係者評価

1 保護者の結果から	- 多くの項目で指標を達成しており、学校の方針や活動に満足している状況がうかがわれる。 - 特にA3については10%以上の上昇がみられ、保護者も、児童が秩序ある学校生活を順調に送っていることを理解していることがわかった。 - 今年度からアンケート項目に加えられた、学校におけるいじめ防止への取組に関する肯定的回答率は、指標に届かなかった。児童の99%が教職員のいじめへの対応を肯定していることを考慮すれば、今年度の取組についての保護者への啓発が十分ではなかったと考えられる。次年度の課題として取り組んでいきたい。 - 昨年度の課題であった「あいさつ」に関しては、保護者の肯定的回答率は、指標には1%およばなかった。また、昨年より2%ほど数値が低下している。他の対象者ではすべて昨年より数値が上昇していることから、学校における「あいさつ」の
------------	--

励行を目指した各種の取組の成果があったと考えられる。今後はこうした成果を家庭にも波及させていくことが必要であり、家庭への呼びかけを強化していきたい。

- ・言葉遣いに関するアンケート結果についても保護者の数値は指標に届かなかった。教職員の肯定的回答率も顕著に低いことから、「時と場に応じた言葉づかい」については次年度の重要な課題として取り組んでいきたい。

2 地域住民の結果から

- ・すべての項目で肯定的回答率は 90%を超えており、学校の方針や活動状況を信頼している状況がうかがわれる。半数以上の項目で 100%という素晴らしい結果が得られた。
- ・昨年度の地域住民の結果から課題となった「時と場に応じた言葉づかい」については、今年度は 15%以上数値が上昇しており、学校全体で指導をしてきた効果があがったと考えられる。
- ・今後はさらに信頼される学校づくりに努め、地域に根ざした学校経営に尽力していきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

今年度は、昨年度より肯定的回答率が上がった項目が多く、教育活動が順調に実施されてきたことが分かる。昨年度の学校評価および本校独自の教育課程評価結果を踏まえ、課題意識を持って、教職員が日々の教育活動を計画的に実施してきたことがこうした結果につながったものと考えられる。次年度も積極的に情報を公開したり、保護者や地域からの要望を学校教育へ反映させたりして、学校への期待や信頼にこたえられる学校づくりに取り組んでいきたい。

保護者の回答からは、学校の情報提供や連携について評価しているものの、「好き嫌いなく食べる」「あいさつ」「言葉づかい」など、児童の基本的な生活習慣の状況について課題意識をもっていることが明らかとなった。そこで、次年度は「共に子どもを育てる」という視点で、今まで以上に家庭とも積極的に連携を図っていきたい。

具体的な方策として、授業参観の回数を今年度より増やすとともに、学級懇談を設定して、学校からの情報公開と家庭への協力を仰ぐ機会を設ける。また、夏休みに行っている全保護者対象の個別懇談に加えて、冬休み前に希望者による保護者懇談を新たに実施していきたい。

特に「好き嫌いなく食べる」、「あいさつ」、「言葉づかい」に関しては、地域全体にも関わる課題として、地域学校園の話し合いにおいても話題に取り上げ、改善に向けて努力していきたい。

また、小中一貫研修会では、教科部会において小中学校の情報交換が行われ、小中 9 年間を見越した連携がなされた。次年度も学力向上に向けて、上河内地域学校園として学習のきまりや家庭学習等、上河内 4 校が足並みを揃えて取り組んでいきたい。